

JASIS

NEWS

No. 42

2008/5/20

日本インテリア学会会報

■ 年報号に寄せて

会長 高橋鷹志（東京大学名誉教授）

1) 会報発行に関して

はじめに、またお詫びしなければなりません。前会報41号で本来ならば本号で執筆すべき「平成19年度を振り返って」と題する一文を掲載してしまったこと、小生の不徳の致すところであり、深謝する次第です。本来、会報発行は年3回で、(1) 新年度（総会后）、(2) 大会報告（大会後）、(3) 年報（年度末）となっていることを私自身きちんと押さえていなかったことと、前号の発行（原稿執筆）時期が大幅にずれていたことが原因でした。こうした事態を繰り返さないように、会報の発行時期と内容を会員の方々に周知していただくよう、総会の話題にさせていただきます。更に前号より「インテリアの行方」というコラムが新設されましたが、年報の編集方針に関しても議論を重ねていく必要を感じています。

2) 学会活動を概観して

学会役員・会員の方々の努力によって、学会活動が充実してきたことを考えるのは私だけでしょうか。総会講演会や見学会の対象はオフィス・インテリアでした。共にコクヨオフィスシステム株式会社の方々にお世話になりました。モバイルワークの進展により、フリーアドレス方式がごく自然に受け入れられているように見受けられたのです。

明治村の大会の件はすでに触れたことですが、その見学会で見た明治の小学校教室に強く興味を感じたことをその後、繰り返し思い出しています。それは当時一般的に使われていた二人用の木製机のことです。自己の周囲のことに無頓着な子ども達が増えている今日、二人用机は同席の相手に気遣うことを体験するのにふさわしい家

具ではないでしょうか。

更に2月に湯本広報委員長の企画で行われた国会議事堂その他永田町界隈の記念建造物のインテリア見学会は記憶に残る体験になりました。特に始めて入った国会議事堂では、陰気な本会議場とその他ホール・廊下（外観も含めて）のインテリアの対照的なデザインに目を引かれ、その背景にどんな考えがあったかを知りたくなりました。

3) インテリアの概念を巡って

以前、インテリアは建築の室内だけでなく室外にも広がっていると書いた記憶がありますが、街中に溢れている物的環境（ガードレール、歩道橋、舗装など土木の領域かと…）に対しても当学会として何らかの発言をすべきではないかと思うのですが。駅舎、プラットホームなどの最も身近な環境もインテリアの一部であり、日頃疑問を持ちつつ対面している物品、家具、構築物の再検討も当学会の考察対象ではないでしょうか。民営化によって様変わりした鉄道駅舎をはじめとして、街中の公共空間のインテリアの問題を採りあげることも必要かと考えています。インテリア業界の一部では、「トータル・インテリア」ということばが多用されているのですが、「トータル」という意味を再構築すべきでしょう。

当学会も今年は、創立20年という節目を迎えており、今後の活動方針について総務委員会において意見交換を行っていますが、会員各位からも次の10年へ向けてのご提言を期待するや大なるであります。



■ 平成20年度総会のお知らせ

事務局長 西出和彦（東京大学）

本年度の総会を下記日程で行います。また、当日は記念シンポジウムも予定しておりますので、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成19年6月7日（土）午後1：00より

場所：千葉工業大学津田沼キャンパス7号館1階

（フレキシブルワークプレイス）

記念シンポジウム：

日本インテリア学会創設への道 … 小原二郎名誉会長

日本インテリア学会の過去・現在・未来（仮）

（副題：日本インテリア学会の新しいビジョンを求めて）

… 小原二郎名誉会長，高橋鷹志会長，渡辺優元副会長

■ AIDIA 国際ワークショップについて

本年7月23日～26日の4日間、九州大学及び九州産業大学にて開催されます。

詳細は未定ですが、随時更新しますので、HPを参照下さい（紙媒体では対応しきれないため）。

本年幹事国である大韓民国AIDIA会長事務局から、既にプログラムは来ています。

現在、4日間の会期と会場については、仮決定しています。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/>

■ 平成20年度日本インテリア学会大会のご案内

支部長代行 湯本長伯（九州大学大学院）

本年9月末の年次大会について、骨子は昨年の大会時広報から変わりませんが、簡単な日程と場所について再録致します。

1）日時・場所：

9月27日（土）第1日 学術発表会

九州大学大橋キャンパス（福岡市南区塩原4-9-1）

9月28日（日）第2日 見学会

長崎の近現代建築と街創り／ながさき美術館、歴史文

化博物館、出島地区整備、近代領事館建築（活水学園等）、海星学園校舎、大浦天主堂、長崎丸山料亭等々

但し、9月26日（金）前日に、大会準備会・理事会等と懇親会を予定しています。

懇親会は、見学会に併せても行う予定です。長崎のホテル宿泊は、45名分確保済みです。

福岡市はイベントが多く、ホテルも十分ありますが、土曜日の宿泊だけがタイトですので、あらかじめご準備下さい。大会への申込等は、別紙にてお願い致します。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/kyus0710.htm>

申込 interior@design.kyushu-u.jp

■ 第19回大会（東海）研究発表について

年報として、大会研究発表をまとめて掲載致します。

前号において2セッションのみ速報しましたが、年報には再録も含め、まとめて掲載します。

【第19回大会（東海）研究発表題目一覧】

A 論文発表部門

【計画（1）】13：00～13：50

【柔道場】【座長：橋本都子】

001 平座の種類の難易度・安楽度に関する調査と分析
小宮容一（芦屋大学）・井上徹

002 断面のズレを伴う2居室の空間形状意識
一下層居室からの見回しー

石田貴之（名古屋工業大学）・前田将嗣・松本直司

003 平面計画の質的評価に関する研究（5）
和室の計画内容の把握その2

ー和室の建具の使われ方ー

横田哲（SI（エスアイ）住宅研究室）・杉本健二

004 空間の自己化とその表出に関する研究 その10

インテリア空間の自己化のプロセスとそのモデル化

松田奈緒子（京都工芸繊維大学）・加藤力

005 表現材料の特徴が子どもの空間表象に与える影響

ー秘密きちワークショップを通してー

北浦かほる（帝塚山大学）

【計画（2）】13：55～14：45

【柔道場】【座長：松田奈緒子】

006 ファッションブティックの空間構成・什器配置・導線計画に関する調査研究

橋本雅好（相山女学園大学）・伊藤美季

007 美浜打瀬小学校の空間デザインの評価と考察

教育・学習・生活環境としてのオープン型小学校の現状と今後のあり方

橋本都子（千葉工業大学）・佐藤将之・赤松佳珠子・

倉斗綾子・上野佳奈子・高橋鷹志

- 008 児童養護施設の8人居室における小集団の領域形成の検討
ー児童養護施設の施設計画条件に関する研究ー
青木一郎（名古屋工業大学大学院）・矢田努・高木清江・仙田満・松本直司
- 009 親子同居における洗濯の協力と分離
黒木美博（旭化成ホームズ（株）二世帯住宅研究所）・松本吉彦
- 010 家族の家事参加の視点からみたキッチン空間のあり方に関する調査研究
平岡さち（島根大学教育学部）

【計画（3）】14：50～15：50

〔柔道場〕【座長：橋本雅好】

- 011 子育てのための居住環境「子育てパブリック」の考察
ー少子化対策に貢献する居住環境の研究 その2ー
河崎由美子（積水ハウス（株））・服部正子・中村孝之
- 012 暮らしとモノからみた生活領域研究
ー現代戸建住宅調査からー
長山洋子（文化女子大学）
- 013 部屋からスペースへ/シュレーダー邸を題材とするインテリアの近代にかかる思考実験
灰山彰好（Studio HAIYAMA）
- 014 建築計画での地球環境配慮の方法のとらえかたの差異から示唆されること
ー高性能工法採用者に見られる傾向をもとにした考察ー
宮坂雅子（東京大学）・西出和彦
- 015 連動回転軸を扉側に設けた滑り出し扉の試作
小原誠（文化女子大学非常勤講師）
- 016 扉の開け方とドアノブ・ドアハンドルの形状との関連について
西山紀子（兵庫科学技術学園）

【人間工学（1）】13：00～13：40

〔剣道場〕【座長：渡辺秀俊】

- 017 室空間の平面位置による「居心地感」の違いに関する実験研究
内田公一（東京理科大学）・垂井健吾・久保田一弘・直井英雄
- 018 事務用いすの設計マニュアルに関する試み
上野義雪（千葉工業大学）・上野弘義
- 019 オフィス用椅子の座り心地評価法の試案
浅田晴之（鉄）岡村製作所）・上野義雪
- 020 椅子・机の条件が筆記具の機能に及ぼす影響

鈴木剛（コクヨS&T（株））・上野義雪

【人間工学（2）】13：55～14：45

〔剣道場〕【座長：直井英雄】

- 021 フリーアドレスオフィスに適合するいすの評価に関する研究
菅又圭亮（千葉工業大学）・上野義雪
- 022 ハンドル形電動車いすの通路走行に関する基礎的研究その3
西岡基夫（大阪市立大学大学院）・石橋達勇・猪井博登
- 023 生活場面におけるロボットの存在に対する違和感
ロボットと人間との相互交流に関する試行実験（その7）
渡辺秀俊（文化女子大学）・佐野友紀・林田和人・高橋正樹・遠田敦・吉岡陽介
- 024 住宅におけるロボットの人間に対する適正な位置に関する研究
ロボットと人間との相互交流に関する思考実験（その8）
林田和人（早稲田大学理工学術院）・高橋正樹・渡辺秀俊・佐野友紀・遠田敦・吉岡陽介
- 025 インテリア空間における動線の有効利用に関する研究（1）
ー公共トイレにおける入り口周辺の場合ー
穴沢舞（千葉工業大学デザイン科学科4年）・上野義雪

【人間工学（3）】14：50～15：40

〔剣道場〕【座長：上野義雪】

- 026 階段勾配・昇降動作・身長と手すり高さの関係
ー階段手すりの設置高さに関する研究その1ー
瀬戸口俊也（東京理科大学）・布田健・加藤正男
- 027 人体寸法分布を考慮した手すり高さ算出法の検討
ー階段手すりの設置高さに関する研究その2ー
布田健（（独）建築研究所）・加藤正男・瀬戸口俊也
- 028 シンク作業の負担軽減を目的とした「もたれバー」の有効性に関する研究
宮本鈴実（（株）ノーリツ）・上野義雪
- 029 立ち座りに苦痛を感じる女性のための女性用立位小便器
高井智代（（株）INAX）・高橋信子
- 030 住宅用火災警報器の有効性
建部謙治（愛知工業大学）・川口達也

【歴史】13：00～13：40 〔弓道場〕【座長：西尾雅敏】

- 031 装飾デザインの背景を探る
英国中流階級にみるヴィクトリアンスタイル

塚口眞佐子（大阪樟蔭女子大学）

- 032 擬洋風建築 郭医院のデザインの特徴について
千森督子（和歌山信愛女子短期大学）

- 033 リートフェルトのクレート家具に関する研究
西中紗也佳（パナホーム㈱）・片山勢津子

- 034 C・R・マッキントッシュの家具デザインの特徴（その4）
C・R・マッキントッシュのインテリアデザインに関する研究（その8）
高橋敏郎（愛知淑徳大学）

【その他（1）】13：55～14：45

〔弓道場〕【座長：北浦かほる】

- 035 インテリア分野におけるCAD資格・認定制度の開発について（その4）インテリアCAD認定制度の現状
稲田深智子（相模女子大学短期大学部）・河村容治・川島平七郎・岡田悟

- 036 インテリアを学んだ学生の進路に関するアンケート調査
ーその2-1 教育機関の就職先調査結果と考察ー
河村容治（東横学園女子短期大学）・高月純子・高柳勝彦・市村倅子・植松嘩子・川島平七郎・見城美子・田辺麗子

- 037 インテリアを学んだ学生の進路に関するアンケート調査
ーその2-2 卒業生アンケートの結果と考察ー
高月純子（女子美術大学）・河村容治・高柳勝彦・市村倅子・植松嘩子・川島平七郎・見城美子・田辺麗子

- 038 インテリアを学んだ学生の進路に関するアンケート調査
ーその2-3 企業の採用調査結果と考察ー
高柳勝彦（都立工芸高校）・河村容治・高月純子・市村倅子・植松嘩子・川島平七郎・見城美子・田辺麗子

- 039 照明による室空間の演出効果
～照度・色温度・配光の影響～
白石光昭（小山高専）・中島龍興・渡辺秀俊

【その他（2）】14：50～15：40

〔弓道場〕【座長：高橋敏郎】

- 040 テーブルスケープデザインに関する研究-1
ー概念と領域ー
中野久美子（宝塚造形芸術大学社会人大学院）・加藤力

- 041 透視図に関する研究 その2 言語から形象化へのプロセス
宮後浩（関西支部）・加藤力

- 042 木造住宅における壁紙施工のサンプリング調査2

加島守（職業能力開発総合大学校東京校）・松浦勝翼・箭内慎吾・角野政弥・山下洋一・松村年郎

- 043 木製家具産業における地場産業活性化の先進事例研究

一日本北海道旭川市の事例を中心に
尹汝抗（弘益大学校美術大学）・小林謙

- 044 高弾性ポリエステル繊維を使用した家具のデザイン開発
滝本成人（相山女学園大学）

B パネル発表部門

【設計デザイン】15：30～16：00

〔第四高等学校武術道場〕【座長：片山勢津子】

- 045 雪灯りとみどりをつつむ家
インテリアとしてのOrganic Unity
今井裕夫（岐阜市立女子短期大学）

- 046 マグネシウム合金による中吊りポスター交換作業用脚立の設計
松崎元（千葉工業大学）・角南健夫

■第19回大会研究発表講評（まとめ）

【座長一覧】

- ・計画（1） [柔道場] 【座長：橋本都子】
- ・計画（2） [踊り場] 【座長：松田奈緒子】
- ・計画（3） [柔道場] 【座長：橋本雅好】
- ・人間工学（1） [剣道場] 【座長：渡辺秀俊】
- ・人間工学（2） 【座長：直井英雄】
- ・歴史 [弓道場] 【座長：西尾雅敏】
- ・その他（1） 【座長：北浦かほる】
- ・その他（2） 【座長：高橋敏郎】
- ・設計デザイン [武術道場] 【座長：片山勢津子】

□計画（1）

（座長：橋本都子）

□計画（2）

006（橋本・伊藤）は、商品を「見せる」空間構成と消費者の購買心理とに着目し、ファッションブティックの近年の傾向について統計的に分析を試みた。分析の際、空間づくりを決定づける重要な要因として、空間の大きさ・什器配置・導線計画を取り上げ、その関係性を明らかにした。什器占有率は、床面積に関係なく一定の割合であること、また、導線計画は、オープンスタイル・

間口が広く、店頭に什器なし型が多く、1996年の深山葛明による基本スタイルにはあてはまらない多様なスタイルの存在を明らかにした。

007（橋本他）は、近年増加するオープン型教室の小学校に焦点を当て、児童および教師の視点から現状把握・考察を行い、今後求められる空間デザインの要素を明らかにすることを目的としている。対象の小学校は、2006年に開校し、同じ設計者による開校後10年を経過した小学校に対する評価が生かされている。こうした丹念な事後評価により、教育・学習・生活環境の場として効果的なデザイン要素を明らかにするとともに、家具や校具一体の建築空間デザインの必要性が論じられた。一方で、音環境に対する課題が引き続き残された。

008（青木他）は、児童養護施設において、生活者としての児童の領域性の確保を明確にすることを目的に、多人数居室の改善方法の検討に取り組んでいる。児童による従来型施設に対する現状評価から、8人居室の事例では小集団の領域形成が課題であることが示された。二段ベッド、間仕切り、収納の導入により空間を分割する改善案の作成を行い、現状居室との比較評価を試みた。その結果、4人の生活単位2単位と共有スペースの設定が概ね可能であることを明らかにし、さらに居室改善に必要な内法幅・奥行幅についての検討が為された。

009（黒木・松本）は、少子高齢化に伴い親子同居の利点が見直される中、設計のポイントとして、二人の主婦が行う家事行為については慎重な検討が必要であるにも関わらず、その実態が明確化されていない点に着目した。特に洗濯行為を取り上げ、分離・共用の実態をアンケート調査により導き出した。洗濯の分離は、夕食の分離以上に進んでいること、また、洗濯分離のニーズは現状の分離度以上に強いことが示された。さらに、娘夫婦同居や片親同居の場合は、洗濯を共同で行う傾向が強いことも確認された。

010（正岡）は、家事作業の参加の利点に着目し、家族が食に関わる家事作業に参加しやすいキッチン空間のあり方について追求している。主婦用と家族用の調査票を別々に作成することにより、家族と主婦の意識と現状の差が抽出された。家事作業の時間に関し、夫以上に子供の参加時間が少ないという実態が浮かび上がった。キッチン環境に対する認知不足を解消し、家事作業自体への心理的バリアを取り除く必要性が論じられた。

（座長：松田奈緒子）

□計画（3）

011「子育てのための「子育てパブリック」の考察」（河崎ら）は、子どもの成長や発達の特徴を「子育て」という視点から、文献および社内プランニングの分析をおこない、新たな住宅設計提案を報告したものである。具体的には、子どもの成長過程にともなうテリトリーの拡大や家族とのつながりの場などを考慮した「子育てパブリック」を提案し、今後の子育てを考慮した居住空間を計画する上で興味深い提案である。発表において、分析手法やデータによる裏付けがわかりにくかった部分を今後は考慮して頂きたい。

012「暮らしとモノからみた生活領域研究」（長山）は、暮らし方のスケッチやレポートから分析する考現学の手法を用いた調査であり、現代住宅の暮らし方を明らかにしたものである。モノの共有性と部屋の独立度から事例进行分类し、現代社会で取り上げられることの多いPCの生活への密接度を導いている。独立度と家族関係についてのさらなる詳細な分析を期待したい。

013「部屋からスペースへ」（灰山）は、パース教育における問題点を背景とし、シュレーダー邸を例にして、スペースデザインの意図をCADデータを用いて分析の報告である。CAD表現におけるパースのかかり方の特徴を解説しているが、分析の視点が不明確であり、質疑応答でも指摘されていたが、研究としてややわかりにくい部分が見られた。

014「建築計画での地球環境配慮の方法のとらえかたの差異から示唆されること」（宮坂ら）は、高性能工法に着眼した調査票による地球環境配慮に対する意識調査である。調査対象を一般消費者から設計者まで網羅しており、分析方法も妥当である。結果としては、地球環境という大きな枠組みには関心があるが、詳細な部分への認識が低いことを明らかにしている。今後は、もう一歩踏み込んだインテリア計画の観点からの調査を期待したい。

015「連動回転軸を扉側に設けた滑り出し扉の試作」（小原）は、狭い場所での滑り出し扉の可能性を探った試作の報告である。今回提案された滑り出し扉は、有効内法幅の確保、運動エネルギーの軽減や事故防止にも繋がる可能性が示唆されているが、中折れでない分、扉部分の手前への突出などは今後の検討部分であろう。実際の人間工学実験などのデータが得られることを期待したい。

016「扉の開け方とドアノブ・ドアハンドルの形状との関連について」（西山）は、ドアノブ・ドアハンドルの形状が扉の開け方に与える影響をアンケート調査によって分析したものである。結果として、ドアノブ・ド

アハンドルの形状から想定される回答が得られている。ただし、8割が開き戸と感じていた結果からすると、これは設定したドアノブ・ドアハンドルの形状に起因すると思われる。また、利き手やドアのスケールなどの設定なども影響すると考えられるため、今後はこれらの条件を加味した研究を期待したい。

計画(3)セッションは、多様なテーマが集まった感があり、また、パネル発表のデザイン部門に適したのもあったと感じた。これは、プログラム編成の段階での調整を再検討すると同時に、発表者の認識も必要であろう。これらも整理することを今後の課題として挙げておく。

(座長：橋本雅好)

□人間工学(1)

017は、室空間内の「居心地感」の平面的分布が、室空間の形状や面積によってどのように異なるかを予測する研究である。「居心地感」の評価値を数式により一般化するまでには至っていないが、実験の結果から、評価傾向にある程度の規則性を見出すことができることが示された。本研究は、ある物理的条件下での心理評価結果から、未知の条件下での結果を予測するためのモデルを得るというものであり、研究目的の設定が明確である点が評価できる。結果としては、概ね居心地感が高いのは、ドアや開放面から離れた入り隅部分であることが読みとれる。これらは、一種のディフェンシブル・スペースのようでもあり、本実験で得られた心理量を「居心地感」という呼称で代表することの妥当性については、今後の検討を期待したい。

018は、発表者の三十数年に及ぶ「いす研究」に基づいて、事務用いすの設計段階および使用時の留意事項をまとめたものである。結果は、「いすの基準点」「寸法・角度」「座面・背もたれの形状と最終安定姿勢」「クッション材料」「体圧分布」「座面」「背もたれ」「枕」「肘掛け」「脚部」「キャスター」「調節機能」「肘掛けと机・テーブルの干渉」「背もたれ背面のデザイン」の14のポイントに整理されている。永年にわたる研究実践から得られた客観的事実にとどまらず、研究者としての直感力を感じる発表であった。設計マニュアルとしても豊富な内容であり、講演発表梗概集としてばかりではなく書籍などの媒体でまとめられることも期待したい。

019は、一般ユーザーが自分に適した作業椅子を選択するために、椅子の座り心地を評価するための評価表を試作することを目的とした研究である。座面に関して20項目、背もたれに関して38項目、その他10項目、総合評価1項目の計69の評価項目を用いて、23脚の事務用椅

子を対象にして10名の被験者による評価を行った。結果は各評価項目間の相関関係をネットワーク図として表現した。また、総合的な座り心地と相関が高い11個の評価項目を抽出した。ネットワーク図は一見すると評価観点の因果関係、すなわち評価構造を分析する評価グリッド法による分析結果と似ている。しかし、一般に相関関係は因果関係を示しているわけではないので、本実験結果は、評価構造とは異なる分析視点と考えたほうがよいであろう。ともあれ、羅列的に示されることの多い評価観点を、ネットワーク図で示すことにより一般ユーザーに理解しやすい情報にまとめた点が評価できる。

020は、太さや重心位置が異なる各種のボールペンを対象として、使いやすい機能条件を求め、またこれらと机・椅子の高さとの適合性について実験したものである。座面が下腿高よりも高い場合は、重心がペン先に近いボールペンが好まれるなどの結果が報告された。発表の中でも触れられていたが、適正な机・椅子の高さのもとで筆記用具を使うことは大前提である。しかし、日常生活の中では、カウンターで立位前傾姿勢で筆記したり、学習用机の上に置かれたノートに教員が立位前傾姿勢で書き込みをするなど、変則的な姿勢を強いられる筆記作業もある。この研究結果が生かされる場面を拡張して考えると、研究の次の展開局面があるように思う。

(座長：渡辺秀俊)

□人間工学(2)

021は、フリーアドレスオフィスに適合するいすを選定する際の評価法に関する基礎的な研究である。評価項目の設定根拠、評価者の数など、現段階では若干の疑問を感じさせる部分もある。たとえば、評価項目として使用者の体格差への対応性や、着座者の心理的距離といすの平面寸法の関係などは採りあげないでよいのだろうか。しかし、まだ着手段階の研究と思われるので、今後の展開に期待したい。

022は、ハンドル形電動車いすの通路走行に関する継続研究のなかで、通路を右左折する場合の問題を扱ったものである。きわめてオーソドックスな人間工学研究で、きわめて妥当な結論を導いている。今後の研究に希望を言わせてもらえるならば、単独の車いすと空間寸法との適合性の観点だけでなく、健常者集団と同居する場面で生じる物理的・心理的な軋轢の問題なども観点の一つとして採りあげていただけたらと思う。

023、024の2題は、ロボットが生活空間に入ってきたときの人間との共生上の諸問題を扱う一連の研究である。このうち023は、生活場面でのロボットの存在そのものの違和感をテーマにしたものであり、024は、人間

にとって邪魔に感じないロボットの動きや待機位置を明らかにしたものである。妥当な方法で、妥当な結論を導いている。

025 は、公共トイレの入り口周辺の動線計画に関する人間工学研究である。動線の複雑さを筋負担で評価しているのはもちろんひとつの指標として使えようが、それだけで本質に迫れるものか、疑問もなくはない。今後の研究の展開に向けて、研究方法上の論理についてもさらに検討していただきたい。

(座長：直井英雄)

□その他 (1)

インテリアにおける教育課題を問いかける研究4題と照明をテーマとする研究が1題である。

035 (稲田他3) はインテリアCADの認定制度を立ち上げて5年が経過した現状報告である。CAD部会員の5年間の目的意識の維持とたゆまぬ努力が目に見えた成果を生み始めたものと評価できる。CAD認定は表現技術習得の問題であり、参加校の教育目的や教育内容が比較的類似していることがその基盤で求められることになるため学校種別に対応した特化した形にならざるを得ないと言える。ここではまず第一歩として、短大のインテリア教育に対応したCAD認定制度がそれに携わる方々の努力で確立され実用化されたことに敬意を表したい。

036 (河村他7)、037 (高月他7)、038 (高柳他7) の3題は2006年に教育部会が実施した教育機関・学生・企業へのアンケート調査結果のまとめである。036 (河村他7) は教育機関の教育目標と学生の就職先との関係をまとめたものである。学生の資格重視傾向を反映して、学校の種別に関わらず近年、教養教育と消費者教育の比重が軽くなり実務教育が重視されるようになっている。インテリア系学生の進路であるにもかかわらず、専修学校以外ではインテリアデザイン業への進路がわずかであることが示されている。037 (高月他7) は卒業生の業種と職種から就業内容や資格取得状況をさらに詳細に検討している。取得資格は出身学校によって傾向があり多岐に渡っている。建築系の資格に対してインテリア系の資格が品質や環境の法的整備や保護など社会的役割を守るためにつくられていないことが、インテリアの専門家の職能の位置づけを揺るがし社会的に職能が評価されていないことと関係があると指摘している。038 (高柳他7) はインテリア産業関連企業が求める人材についての調査結果をまとめている。企業の採用時評価ポイントは人柄・能力・スキル・成績の順であり、情報を取捨選択できる能力や建築、インテリアの専門的知識だけでなく幅広い知識を身につけ豊かな人間性や協調性、向上心などを期

待している。教育機関へは社会の変化に対応した履修内容や応用の利く人間性、基礎力、発想力の育成を求めている。インテリア系学生の進路調査から見ても未だにその職能の社会的位置づけが確立していない実態は否めない。インテリア専門家の職能を社会的に位置づけるために、学会が中心になってインテリア資格の役割を確立しその社会的評価を高めていく責務があると痛感する。

039 (白石他2) は照明による室空間の演出効果を実空間実験で追求し室内評価と室外評価の差異や時間感覚の影響を明らかにすることを目指している。室内・外による評価の差の検討があいまいになっていることが残念である。また時間感覚が、空間評価に位置づけられておらず指標とした理由が不明である。また、照明による時間感覚は生理面ではなく、明らかに心理面の影響であると考えられることなど幾つかの問題があげられる。

(座長：北浦かほる)

□その他 (2)

(座長：高橋敏郎)

□設計デザイン

パネル発表は2件、入り口土間部分というとても親密な空間で行なわれた。

045 「雪灯りと緑をつつむ家 インテリアとしてのOrganic Unity」は、石川県小松市の住宅についての発表である。旧市街に面した道路空間をインテリア化し、庭のみどりの気配を道路と呼吸させるためにコートハウス方式を採用している。デッキに雪国の日常の記憶をとどめることを主題としている。配置図等の工夫があれば、より理解しやすかったと思われる。

046 「マグネシウム合金による中吊りポスター交換作業用脚立の設計」は、列車内の中吊りポスター交換作業で使用するための脚立の試作で、マグネシウムの軽量性を生かし、片手で開閉できるデザインが提案されている。マグネシウム合金は軽量でリサイクル性に優れるが、加工の難しさやコスト面からまだ使用が限られている。現地では未検証とのことであったが、今後の展開が期待される。

(座長：片山勢津子)

■ 運営委員会だより（年度活動報告より）

□論文委員会

委員長 直井英雄（東京理科大学）

1) 論文報告集18号の論文審査

（採用…論文11編，報告0編）

（原稿提出期限についての注意…昨年より11月末日に変更されています。また、連続する2編以上の論文の応募が認められなくなっています。なお、2編以上の論文であっても、それぞれが独立した論文であれば応募できます。）

□広報委員会

委員長 湯本長伯（九州大学）

1) 事務ホームページの更新（25回）を行った。最近では、部会研究会等についても多くの掲載情報を戴き、良いアップデートが来ていると思われる。HPの価値の一つは更新頻度にあると言われるので、会員や役員の方々の更なる更新要求・情報提供を、お願いしたい。

またホームページのURLは、

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/> です。

既にミラーサイトはありませんが、お間違えないように宜しくお願いします。

2) 広報委員会では、インテリア学会メールニュースの試験的発行を続けています（現在15号）。現在は、メールアドレス登録者が170名で変わりませんが、次第に充実させて行きたいと思います。皆様の、一層のアドレス登録を、お願い致します。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/mail-news.html>

3) また会報39号から、会報編集のテンプレート変更についての議論をお願いしています。現在は、最低でも年間3号、総会後（大会前）と大会後、及び年報（年度最終号）を発行しているが、もう少し違った切り口の発行時期や編集内容提案があれば、編集委員会（広報委員会）も動きやすいので、ぜひご意見・ご叱責をお願いしたい（湯本長伯宛て）。年間4号発行は近年ほとんど無く、現状では3号が定着しつつあります。この件は、ぜひ大会前にご意見をお寄せ戴きたい。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/41.pdf>

4) なお4月理事会後に、新理事及び新会長決定という

ニュースを、メールニュース及びホームページでお知らせしましたが、正式には総会決定とのクレームが総務委員会からありました。

広報委員会を代表して訂正し、お詫び申し上げます。

（JASISeditor@yahoogroups.jp,

yumoto@design.kyushu-u.ac.jp）

□国際委員会

委員長 加藤力（宝塚造形芸術大学）

□総務委員会

委員長 上野義雪（千葉工業大学）

1) 理事会の開催準備

2) 総会及び講演会の開催準備

3) 総務委員会の開催（3回実施）

■ 支部だより（年度活動報告より）

□北海道支部

支部長 小林 謙

・講演会の開催

1) 「デザインへの想い」 栄久庵 憲司氏

（平成19年6月21日）

・支部会議等

□東北支部

支部長 若井 正一（日本大学）

・支部研究報告会を開催し（平成20年3月14日）、以下の6題が報告された。

1) 台所流しにおける水栓の使われ方の実態に関する研究

2) 住まいにおける食卓まわりの家族の着座特性に関する検討

3) 住宅設計コンペの参加作品からみた家族の住まい方に関する一考察

4) 自作の実務設計作品からみたインテリアを中心とした事例紹介

5) 色彩感覚と環境要因

6) 若者の色彩感覚における地域差の考察

□北陸支部

北陸支部長 小松 暁一（金沢美術工芸大学）

- ・講演会の開催
- ・見学会の開催
 - 1) 能登沖地震のあった輪島・穴水

□関東支部

支部長 岡田 悟（共立女子短期大学）

- ・見学会&セミナーの開催
 - 1) 「UR都市機構都市住宅技術研究所集合住宅歴史館」
（平成19年8月1日）
 - 2) セミナー「アパートメントハウスが輝いていた頃」
（平成19年8月1日）
- ・「支部ニュース」第9号発行（平成20年3月1日発行）

□東海支部

支部長 建部謙治（愛知工業大学）
（支部総会後に報告予定）

□関西支部

支部長 北浦 かほる（帝塚山大学）

- ・講演会の開催
 - 1) 「すてきな暮らし」 喜多 俊之氏
（平成19年10月25日）
 - 2) 「家族の絆をつくる家」 外山 智徳氏
（平成19年12月1日）
- ・支部選挙の実施（評議員，支部長）

□中国四国支部

支部長 大森豊裕（近畿大学）

- ・支部総会の開催（平成19年6月16日）
- ・講演会の開催
 - 1) 「日本家具文化考」 石丸 進氏
（平成19年6月16日）
 - 2) 「社会的価値を作るデザイン」 田中 一雄氏
（平成19年7月6日）
 - 3) 「非電化住宅」 藤村 靖之氏（平成19年10月18日）
- ・見学会の開催
 - 1) 「伊丹十三・坂の上の雲美術館&内子探索」
（平成19年12月1～2日）
- ・卒業設計優秀作品の支部表彰
- ・幹事会の開催

□九州支部

支部長代行 湯本長伯（九州大学大学院）

- ・見学会の開催（福岡ー太宰府ー日田）
 - ・支部会の開催（3月，4月）
 - ・評議員選挙及び次期役員選出
- 本年度は、AIDIA国際ワークショップ、及び、年次大会の開催が予定されており、車先生（支部長予定者）を中心に、一致協力して課題の完遂に取り組んで行くことになります。また幾つかの、支部活性化事業が提案されており、順次、実施に移して行くことになるでしょう。
- 先ずは、多くの会員の皆様の来福を、お願い申し上げます。
- <http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymt1ab/JASIS/kyus.html>

■ 研究部会だより

□歴史部会

部会長 内藤昌（愛知産業大学）
代表幹事 河田克博（名古屋工業大学）

□計画・構法部会

部会長 栗山 正也（KDアトリエ）

- ・当部会の「原案作成WG（小原誠主査）」が中心で進めていた「インテリア工事標準書・本文編34章（416p）/解説編（170p）」の編集、検討が終わり、（財）経済調査会により11月に発刊された。

なお、インテリア四団体で構成する「検討委員会」は今後の改訂等の検討・決定機関として存続することになった。（インテリア四団体は、インテリア学会、日本インテリアプランナー協会、日本インテリアデザイナー協会、インテリア産業協会を指す）

- ・H19年3月から再開された「インテリア学大系」創刊検討WG（主査：湯本長伯）は8月、9月に開催、10月の大会・理事会において当部会から独立し、特別研究委員会へ昇格が承認された。その後は「インテリア学大系」編纂委員会（委員長：湯本長伯）として活動を行っている。

□人間工学部会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

- ・見学会／研究会の開催
 - 1) 見学会 「コクヨオフィスシステム株式会社霞ヶ

関ビル」(平成20年2月29日)

- 2) 講演会 「クリエイティブオフィスコンセプトと
その実際」(平成20年2月29日)

□教育部会

部会長 見城美子(女子美術大学)

1. 平成19年度活動報告

1) 「第14回卒業作品展」および「巡回展」の開催

2007年10月6日(土)7日(日)の2日間明治村第四高等学校武術道場にて「第14回卒業作品展」を開催し25校から40名の参加があり、また、今年から東京の2カ所で、巡回展を開催することが出来ました。山脇ギャラリー展では、何点か模型も展示することが出来、出品者も多く訪れ、受賞者からは作品のプレゼンテーションをしてもらいました。また、懇親パーティも開催しました。

●山脇ギャラリー展：2007年11月2日～13日

●インテリアフェスティバル2007：ギャラリー作品展
(東京ビッグサイト)2007年11月21日～24日

巡回展は20年度も開催の予定で準備を進めています。また、今後も続ける方向でいます。卒業作品展は大会時に開催ということで、1日または2日間の会期になり、せっかく集まった作品をもう少し多くの方に見てほしいとの思いがありましたが、巡回展が実施されさらに学生の励みになると同時にインテリア学会のことも知っていただくチャンスになればと思っています。

2) 卒業作品展「優秀作品の表彰」

理事会で検討して頂いていた「優秀作品の表彰」が、今年度より正式に実施されました。

審査は10月6日(土)11時から審査委員会が行いました。

始めて実施してみて、まだ検討しなければならないことは多いと感じましたが、権威ある「賞」に定着するように、学会としても検討を重ねていただくことを願っています。尚、受賞者には、賞状と副賞(図書券)が贈られます。

3) 「インテリアを学んだ学生の進路に関する調査」報告

2006年よりインテリアを学んだ学生の進路についてアンケート調査を進めていますが、昨年に続き大会において以下の3題で発表しました。

その2-1 教育機関の就職先調査結果と考察

その2-2 卒業生アンケートの結果と考察

その2-3 企業の採用調査結果と考察

また、これらは、論文報告としてまとめました。

□住宅部会

部会長 直井英雄(東京理科大学)

平成20年度に下記の研究会を計画している。多くの方の参加を希望しております。

1) 「建築の事故と法—基準法だけでは足りない(3)」

日時：6月19日(木)10時～12時

講師：佐藤貴美氏(弁護士)

□デザイン部会

部会長 佐渡山 清(ゼロファーストデザイン)

・インテリアやデザインに関連したイベント情報の発信
(電子メール、郵送にて)

1) OZONE イベント情報

2) 飛騨高山「暮らしと家具の祭典」

3) 東京アーバンライフ開催情報

4) 海外展示会情報(ミラノサローネ、ケルン等)

5) インテリアトレンド2007

6) INAX 展示会

(お願い：アドレス登録がされていないと配信できませんので、配信希望の方は登録をして下さい。

連絡先：nakasone@zerofirst.co.jp)

□CAD部会

部会長 川島平七郎(元東横学園短期大学)

・幹事会の開催(計6回)

■ インテリア学大系・特別委員会／研究部会報告

委員長 湯本長伯(九州大学大学院)

インテリア学大系発刊のために、構想・編集等の担当を担うWGは任意組織として作られ、既に3年以上の活動を続けています。これらの活動を受けて、より本格的な段階に進むため、このたびインテリア学大系・特別委員会(委員長：湯本長伯・九州大学大学院教授)として改組し、また特別委員会としての予算(5万円)も配分されることとなりました。ほぼ月毎に委員会を開催(九州大学東京オフィス／丸の内)し、種々の問題についての議論をまとめ、次の具体的なアクションに向けての報告の準備をしつつあります。

特別委員会としては、秋の大会時に関連のシンポジウムを開くべく、準備と調整を進めたいと思っています。

現在のメンバーは、高橋鷹志、西出和彦、栗山正也、小原誠、湯本長伯、白石光昭、渡辺秀俊、村口峯子、谷口久美子、安武敦子、といったところですが、新メンバーを公募しますので、ぜひ応募をお願い致します。

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtllab/JASIS/taikei.html>

■ 理事会議事録

□平成19年度 日本インテリア学会臨時理事会 議事録

記 録：松崎元（総務委員）

日 時：平成20年4月19日（土）14：00～16：00

会 場：東京大学工学部1号館3階315号室

出席者：高橋会長、小原（二）名誉会長、加藤副会長、北浦副会長、上野、小原、川島、木村、栗山、小林、小宮、清水、白石、建部、田辺、直井、西出、松本（直）（理事18名）＜委任状15＞松崎（総務）、前田（事務局）

配布資料：

1. 日本インテリア学会（平成20/21/22年度）理事選挙結果 ＜会議後回収＞
2. 入退会者名簿（2007年10月7日～2008年4月18日）
3. 九州大会イベント準備・進行状況（湯本）
4. AIDIA関連資料（西出）
5. 全国高等学校インテリア科教育研究会事務所並びに大会当番校の開設について（西出）

<議事>

白石理事・総務委員の進行で議事に移る。

1. 評議員選挙結果について（上野）

平成20/21/22年度評議員選挙の開票結果について説明があり、資料1の通り退会済みの紺藤建夫氏を除く92名の評議員が承認された。

2. 理事選挙結果について（上野）

平成20/21/22年度理事選挙の開票結果について説明があり、資料1の通り下記16名の理事が承認された。

日原、若井、上野、栗山、小原（二）、沢田、高橋（鷹）、直井、西出、渡邊（秀）、建部、松本（直）、加藤、北浦、小宮、湯本（小原（誠）現理事は辞退）

投票数69（有効68、無効1）

3. 会長選挙について（白石）

現理事18名により、選出された理事16名の中から、平成20/21/22年度の会長への推薦者（高橋鷹志理事）を決定し、総会にて推薦することとした。

4. 副会長選挙について（白石）

同様に現理事18名により、新理事の中から平成20/21/22年度副会長への推薦者（加藤力理事、直井英雄理事）を決定し、総会にて推薦することとした。

5. 会長推薦幹事について（上野）

支部活動の円滑化を目的に、会長推薦幹事として以下の新評議員を理事として加えることが承認された。

北海道支部	小林 謙 支部長
関東支部	岡田 悟 支部長
北陸支部	棒田邦夫 支部長
中国・四国支部	大森豊裕 支部長
九州支部	車 正弘 支部長

また、部会活動の円滑化を目的に、教育部会長（総会までに決定）を、更に、インテリア業界から松本吉彦現理事、事務局・総務委員から白石光昭現理事を再任することが承認された。

6. 監事の信任について（上野）

評議員選挙と同時に行なわれた監事信任投票の結果、佐藤公信氏、上野弘義氏の両名が、平成20/21/22年度監事として信任され、理事会で承認された。

以上、評議員92名、理事23名、会長1名、副会長2名について、6月予定の総会で諮り、承認を求める。

7. 入退会者について（西出）

2007年10月7日から2008年4月18日までの入会者および退会者について、資料2の通り事務局より報告があった。（入会者10名、退会者43名、賛助会員入会1社、賛助会員退会4社）

8. 第20回大会（九州）について（西出）

大会長の湯本理事に代わり西出事務局長が、第20回大会（九州）について、スケジュールと進捗状況の報告を行った。

1）6月7日の総会シンポジウムとの関連も踏まえ、大会シンポジウムについては、九州支部を中心に20周年イベントとして計画する。

2）今回から電子媒体による梗概原稿の提出を実施し、論文報告集についても検討する。

9. AIDIAワークショップについて（西出）

7/23（水）から7/26（土）の4日間、九州大学・九州産業大学で開催予定のAIDIAワークショップについて会場の手配状況について説明があった。（資料3、4）

10. AIDIA ジャーナルについて（西出）

AIDIAは2008年より、アメリカ、スウェーデン、スイス、イタリア、インド、インドネシアなどを加え、国際学会として拡大し、論文誌も「International Journal of Spatial Design and Research」としてISSN番号を引き継いだままVol. 8として発行する。

- 1) AIDIAホームページへのJASISデータ提供は、国際部会が対応する。（加藤）
- 2) 日本の会員増強のためにも、学会ホームページの充実重要である。（清水）
- 3) 今後AIDIAへの対応については、論文誌への投稿を中心とし、日本でのシンポジウムやワークショップの開催については、財政、スタッフ数の面から困難であるため、まずは国内の学会活動を優先して行なうよう努める。

11. その他

- 1) 全国高等学校インテリア科教育研究会より、本年度の事務局が千葉県立市川工業高等学校（インテリア科）、大会当番校が秋田県立能代工業高等学校（建築・木材科）に開設された旨、報告があった。大会は能代工業高校で7/28～7/30に開催される。（西出）（資料5）
- 2) こども環境学会のご案内（松本（直））
- 3) 今年度総会は、6月7日（土）午前：理事会、午後：総会／シンポジウム 場所：千葉工業大学（津田沼校舎）
以上

■ 広報担当委員公募について

広報委員は以下の4名のみで、今もかなり手薄な状態ですので、新しい編集委員を公募いたします。地域的に、北海道・東北・東海・近畿からの応募を期待し、お願い申し上げます。

- ・広報委員長：湯本長伯 [九州大学大学院・教授]

<mailto:yumoto@design.kyushu-u.ac.jp>

- ・会報編集委員長：渡辺秀俊 [文化女子大学・准教授]
- ・編集委員：平井康之 [九州大学大学院・准教授]
- ・年報編集委員長：白石光昭 [千葉工業大学・准教授]
- ・ホームページ・メールニュース編集委員長：

湯本長伯 [九州大学大学院・教授]

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/koho.html>

【新コラム】

■ 連載『インテリアの行方』

「高等学校インテリア教育の行方」

千葉県立市川工業高等学校 インテリア科

金子裕行

（全国高等学校インテリア科教育研究会事務局校）

昭和48年4月、全国の工業高校（専門高校）の工芸科が一斉にインテリア科に変わり、35年の歳月が流れた。私が市川工業高校に着任した昭和62年ころは、インテリア科を有する学校が51校存在したが、現在では高校の統廃合や学科の改編が進み36校になろうとしている。この先さらに減じる可能性があることが懸念される。

高校のインテリア科では何を教えるの？これは、本校を受験する中学生や保護者の多くが抱く疑問である。本校を受験した新入生から受験理由を聞くと、学校のHPを見て面白そうだから受験した。私は絵を描くのが好きだから。私はもの作るのが好きだからなどなど・・・インテリア科の授業内容を完全に把握して受験する生徒は少ない。

一般的には、インテリアという言葉が認知されているにもかかわらず、インテリアの内容を知らない人が少なくないというのが現状であり、インテリア＝家具と思っている人も数多く存在する。

全国の高校のインテリア科では何を教えているのだろうか。インテリアの分野は広すぎて何を柱にしたらいいか解らないという悩みを抱えながらも、地域において存在価値を見出しながら情報関係や資格取得に取り組んでいるところ、また地域伝統工芸や家具を中心に加工技術をとおしてもものづくりを追及しているところなど、取り組んでいる内容が統一されていないのが全国の高校のインテリア科の教育現状であり、問題点でもあると思われる。

私が市川工業高校インテリア科で約20年間培って得られた、高校でのインテリア教育のヒント及び今後の可能性について一部述べることにする。

- (1) ものづくりに必要な根っこ部分を大事にし、育てること。

それは、子供たちが本来持っているものを呼び覚ますことである。子供たち一人一人が本来持っている感じる力を呼び覚ます。五感で感じたことをたくさん記憶する。そうすることで興味関心が高まり、疑問が生まれる。疑問は考えることの入り口であると私は考えている。想

像も創造も感じることから始まる。

- (2) 子供たちにインテリアの素晴らしさ、面白さを伝えること。

本校は平成19年度から文部科学省、経済産業省の共同事業として「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」指定を受け事業を展開することになった。事業内容の一つに「企業技術者による授業」というものがあり、本校では地元市川にある(株)エーアンドエムにお願いして授業をしていただくことになった。(株)エーアンドエムは、ホテルの特殊内装や壁画制作等を手掛ける会社で、インテリア空間にアートを取り入れ、手作りによるクオリティーの高い空間提供を目指している。

3回に分けて授業を実施した。1回目は、会社の業務実績からインテリア計画とは何かを学習した。2回目は、特殊塗装の実習でエージングという技法を学んだ。3回目は、大工による継ぎ手、仕口の話や鉋掛けの実習に始まり2回目で学習したエージングの技法がどのような応用されているかを実演やスライド等で楽しく学習した。生徒のほとんどがプロの技のすごさを知り、感動した。インテリアの素晴らしさ面白さ知ることができた素晴らしい授業であった。

この授業内容を千葉県教育庁とNPO法人企業教育研究会共催による「キャリア教育研究協議会」のシンポジウムで報告する機会があり、今後のインテリア教育のヒントを得たような気がした。それは、インテリアによるキャリア教育の実現である。小学校、中学校の子供たちにも企業の技術者がインテリアの素晴らしさ、面白さを教える。それが数をこなす小・中学校に広まれば、先に述べたインテリアの認知の問題が解消されるかもしれない。

高等学校のインテリア教育は、何を目指すべきか。いろいろと異論があると思われるが、感受性が失われている、なるべく若い世代にもっともっとインテリアに興味関心を持たせる工夫をし、インテリアの素晴らしさ、面白さを伝えることが大事であると私は考えている。老子は「建物の真実はその屋根と壁にあるのではなく、それらに囲まれた住まわらるべき内部の空間にある」と述べたが、この言葉の意味をこれからもずっと生徒たちに伝えて行きたいと思う。

高等学校のインテリア科の存在意義をもっともっと多くの方々に知っていただきたい。インテリア学会とのつながりを今後も積極的に深めて行きたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 編集後記

平成19年度の年報号として、会長、支部長、部会長、委員長の皆さんを中心に原稿を寄せていただきました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた方に御礼申し上げます。

また、今年度は前号と今号の会報の発行が遅れましたことを深くお詫びいたします。このため、今年度は高橋会長のご指摘にもありますように、会長による年度のまとめは前号に掲載されております。(なお、これまでの会報をご覧になりたい方や他の情報を知りたい方はホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。)

なお、ご意見等をお持ちの会員の方からも原稿をお待ちしておりますので、ぜひお寄せください。前号から連載を始めた「インテリアの行方」に関連して、会員の方が考えていることをお送りいただいても結構です。会報を会

員相互の情報交換の場として盛り上げていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(白石記)

(白石光昭 mitsuaki.shiraishi@it-chiba.ac.jp)

■日本インテリア学会会報第 42 号 (2008. 5. 20 発行)

編集者：白石光昭、湯本長伯 (佐藤恭子)

発行者：高橋鷹志 (日本インテリア学会会長)

広報委員会：湯本長伯、平井康之、白石光昭、
渡辺秀俊

■事務局

日本インテリア学会

事務局長 西出 和彦

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

FAX : 03-5841-8515